

様々な情報の重ね合わせによる 新たな利用価値の創造

—地理空間情報プラットフォームの検討—
高度情報化研究センター 情報研究官
高度情報化研究センター 情報基盤研究室



末吉 滋
前室長 金澤 文彦 交流研究員 成田 一真

(キーワード) 地理空間情報, 情報管理, 電子地図, 空間情報連携仕様

1. はじめに

国土交通省は、2007年に策定した国土交通分野イノベーション推進大綱において、位置に関する情報を含んだ「地理空間情報」を社会基盤として新たに位置づけ、これを共有財産として提供することが、災害対応やユニバーサル社会の実現等に有益であるとしている。これを実現するために、「地理空間情報」について位置をキーとして集約し、情報を統一的に取り扱うことにより、国土交通省が保有する各種の情報を国民や行政機関、学校、民間企業等の誰もが自由に利用できる環境を目指して、地理空間情報プラットフォームの構築に取り組んでいる。

2. 地理空間情報プラットフォーム

地理空間情報プラットフォームとは、①地理空間情報を交換する仕組み、②地理空間情報を利用するアプリケーション、③位置情報を基にしたサービスの3つが相互に作用し合って実現する社会環境を意味している。

本研究では、①地理空間情報を交換する仕組み



図-1 地理空間情報プラットフォーム基本システム

として、位置情報を含む概要情報の仕様である「空間情報連携仕様」を作成し、情報交換を可能とした。これらの概要情報は、②地理空間情報を利用するアプリケーション（図-1）により一元的に電子地図上に可視化され、利用者はこれまで単体で提供されてきた情報同士を自由に重ね合わせることが可能となる。さらに、利用者が持つ情報との組み合わせにより新たな利用価値を持つ情報が創造でき、③位置情報を基にした新たなサービスを提供できる可能性がある（図-2）。例えば、歩道のバリアフリーマップと浸水想定区域図と避難所位置を重ね合わせることによる最適な避難誘導支援サービスなどが考えられる。

3. おわりに

国総研は、2010年度の本格運用を念頭に国土地理院、東京大学空間情報科学研究センターと共同研究を行っている。2009年度以降は、登録データを拡充し、外部での社会実験を実施するとともに、基準類のとりまとめや民間企業での利活用の普及等に努めて、本格運用していく予定である。

本研究の取り組み状況については、ウェブサイトにて公開しているので、是非ご覧ください。

<http://www.spat.nilim.go.jp/home/>

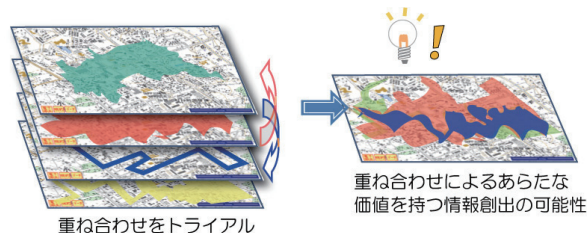


図-2 情報の重ね合わせによる価値創造の概念